

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 23 日現在

機関番号：62608

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2010～2013

課題番号：22320136

研究課題名(和文)幕藩政アーカイブズの総合的調査・研究

研究課題名(英文)Comprehensive research on the archives of the Shogunate and lords in the Edo period

研究代表者

高橋 実(TAKAHASHI, Minoru)

国文学研究資料館・名誉教授

研究者番号：20296180

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,600,000円、(間接経費) 3,780,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、当初の計画調書に明示しているように、幕府・諸藩など領主組織が各部署において作成・授受し、管理・保存し、活用してきた文書記録やアーカイブズをアーカイブズ学に立脚した視点から、通算15回の研究会を開催し、44本の報告と議論を行った。具体的には、江戸幕府、旗本、弘前藩、秋田藩、米沢藩、高田藩、松代藩、尾張藩、京都町奉行、岡山藩、鳥取藩、萩藩、土佐藩、福岡藩、長崎奉行、熊本藩、対馬藩、鹿児島藩について、最新の研究成果を得ることができた。

研究成果の概要(英文)：From the perspective of archival science, this project aimed to study the Japan's Edo-period records and archives, which were created, received, managed, preserved and used by each government division of the Shogunate and lords. During the project period, we conducted fifteen research meetings which include forty-four presentations and discussions. This project covered the latest findings on the Tokugawa Shogunate, Hatamoto (direct retainer of the Shogun), Kyoto city magistrate's office, Nagasaki magistrate's office, and the following Hans (domains): Hirosaki; Akita; Yonezawa; Takada; Matsushiro; Owari; Okayama; Tottori; Hagi; Tosa; Fukuoka; Kumamoto; Tsushima; and Kagoshima.

研究分野：アーカイブズ学

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：幕藩政 文書管理史 文書群構造分析

1. 研究開始当初の背景

史料群の伝来については早くからその意義が認められ、研究が進められてきたが、その前提となる文書管理史研究の意義についての認識は弱かった。勿論戦前から文書群生成過程への着目や史料の原秩序・現状について留意すべきであるという主張があったことは確かである。しかし、それが戦後の近世史料学に受け継がれず、発展を見ることもなく長い間、史料学の「暗い谷間」といわれてきた。

我が国の文書管理史研究は、戦前からの流れと戦後の史料群との格闘の中で生み出された知見に、欧米のアーカイブズ学研究の影響が加わって 1970 年代後半から試みられるようになった。中でも近世の文書管理史研究は 1980 年代から大きく展開した。それらは、村方文書の管理形態を明らかにし、村政機能やその基盤となる村落共同体の有り様や、多様な地域社会集団固有の価値意識などに関連づけた先駆的研究であった。

幕府や諸藩、寺社や町、組合などの文書管理史研究も少しずつ進められてきたが、必ずしも十分といえる状態ではなかった。しかも、事例研究の域を出ないものも少なくなかった。このような状況を踏まえて本研究は、幕府と諸藩を対象とした文書管理史の個別研究を進めると共に、幕藩政文書全体の作成、管理・保存、利用にかかわる総合的研究を企図したものである。

2. 研究の目的

本研究は、日本近世の幕府と諸藩が各部署において作成・授受し、管理・保存してきた文書記録(以下「文書」という)をアーカイブズ学に立脚した視点のもとで総合的研究を行うものである。アーカイブズ学は、文書を歴史研究はもとより多様な立場から創造的文化的活動の素材として活用するために必要な知識と技術の体系化をめざす基礎的な学問分野である。

アーカイブズ学研究領域の一分野である文書管理史研究は、文書群の構造を理解する基礎として、当該文書群を発生させた組織体における文書の作成や管理・保存、あるいは利用や廃棄のシステムを歴史的に究明するものである。さらに文書群が今日に伝存するに至った経緯や環境にも留意して研究するところに特徴がある。

幕府や藩など一定の規模をもった組織体の場合、組織体機能が内部機構によって分担されることから、文書群の総体は、藩組織の機能分担システムを反映した体系的秩序、有機的構造をその内部に備えることになる。この文書群の内部構造を明らかにすることは、それに含まれる小文書群・各文書の科学的かつ十全な理解に必要不可欠である。このような文書群内部構造の把握に文書管理史研究

が有効である。近年では文書管理史の研究からさらに文書を作成し管理・保存してきた当該組織体の文書行政論・組織機能論や文書保存空間論などにも広がりを見せるようになってきた。以上のように本研究は、幕藩政文書を対象として、文書管理システム分析を中軸に、アーカイブズ学の立場から幕藩政文書を総合的かつ具体的に調査・研究しようとするものである。具体的には、いくつかの藩では、個別藩政も加除研究が進んでおり、これらの史料調査の成果や研究蓄積を整理し、それを継承しながら、さらに全国各地の多くの研究者を結集し、全国の個別幕藩政文書群の個別研究をより一層進めることを第一の目標とした。同時に、個別事例研究の積み上げのみでは破れない壁を越えるために、複合的視野で総合的検討を積み重ね、幕藩政文書管理史全体の歴史的な位置、意味、役割を明らかにすることが第二の目的とした。

幕藩政文書の中に文書管理に関わる規定など直接的な史料は少なく、多くは伝来してきた結果として現存形態や管理保管のために作成された文書目録や、その目録に記載されている断片的な文言による分析に頼らざるを得ないが、できるだけ詳細な分析によって文書がどのように作成され、授受され、管理保管されてきたのかという文書管理の有り様を具体的に解明することとした。その上で、文書の評価・選別の視点や仕組み、あるいは文書群が如何なる場所にどう保存され、如何なる経緯で今日まで伝存したかを考究する文書存在空間論、文書移動論、さらに文書廃棄論をも視野に入れて、文書群のライフ・サイクルに関する認識とそのメカニズムをも解明することとした。

3. 研究の方法

研究分担者・連携研究者はそれぞれ調査・研究対象を具体的に設定するが、それにとらわれず他の史料調査・研究にも積極的に参画し、比較史の視点で本研究全体の進展に寄与できるようにする。研究メンバーが調査・研究の場を多く共有することにより、研究上の相互理解を深め、本研究全体の水準アップにつながるものとなる。

4. 研究成果

本研究は、当初の計画調書に明示しているように、幕府・諸藩など領主組織が各部署において作成・授受し、管理・保存し、活用してきた文書記録やアーカイブズをアーカイブズ学に立脚した視点から、通算 15 回の研究会を開催し、44 本の報告と活発な議論を行った。具体的には、江戸幕府、旗本、弘前藩、秋田藩、米沢藩、高田藩、松代藩、尾張藩、京都町奉行、岡山藩、鳥取藩、萩藩、土佐藩、福岡藩、長崎奉行、熊本藩、対馬藩、鹿児島藩などについて、最新の研究成果を得ること

ができた。

本研究の参画メンバーは、新たに全国の各種アーカイブズ(文書館・博物館など史資料保存利用機関など)で活躍されている研究者も含まれ、新しい事実と新鮮な発想を共有することができたことは大きな成果である。

このように当該研究分野は新しい分野であり、まだまだ蓄積は薄い。しかし、歴史学をはじめさまざまな分野や諸学の史資料の利活用に欠かせない基礎的な研究分野であるとの認識から本研究を進めた。

以上の研究成果をとりまとめ、『幕藩政アーカイブズの総合的研究』として2014年度内に出版する予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計13件)

戸森麻衣子、倉敷代官所における元締手附の職務と代官所文書、倉敷の歴史、査読無、24号、2014、ページ未定

渡辺浩一、災害対応と文書行政 :江戸における二つの大水害から、歴史評論、査読無、760号、2013、pp.63-77

東昇、近世対馬藩の文書管理とデータベース構築、アートドキュメンテーション研究、査読有、20号、2013、pp37-48

原田和彦、松代藩における地方支配と文書の管理、信濃、査読有、65巻5号、2013、pp1-24

林匡、「島津家由緒」と薩摩藩記録所 - 寛永から正徳期を中心に -、黎明館調査研究報告、査読無、25号、2013、pp1-40

戸森麻衣子、幕府代官手代の職分の継承と職務情報蓄積 代官手代文書の検討を通じて、論集きんせい、査読有、35号、2013、pp1-19

中野達哉、弘前藩庁日記と日記役、国文学研究資料館紀要アーカイブズ研究篇、査読有、9号、2013、pp1-25

高橋実、近世地域社会における文書の作成と管理、国文学研究資料館紀要アーカイブズ研究篇、査読有、2012、8号、pp.1-15

山田哲好、[史料紹介]弘前藩庁における文書管理帳簿の紹介と翻刻(その2・完)、国文学研究資料館紀要アーカイブズ研究篇、査読有、8号、2012、pp1-126

林匡、薩摩藩・佐土原藩の藩政文書管理、鹿児島史学、査読無 57号、2012、pp5-71

高橋実、日本近世における村連合の運営と記録保存、9-19世紀文書史料の多元的複眼的比較研究2010年度年次報告書、査読無、2011、pp197-203

山田哲好、[史料紹介]弘前藩庁における文書管理帳簿の紹介と翻刻(その1)、国文学研究資料館紀要アーカイブズ研究篇、査読有、7号、2011、pp1-143

渡辺浩一、存在証明文書の実践 近江八幡の「御朱印」をめぐる、国文学研究資料館研究紀要アーカイブズ研究篇、査読有、6号、2010、pp.73-100

[学会発表](計1件)

原田和彦、松代藩と村 文書の作成・管理という視点から検討する、信濃史学会研究会、2012年11月3日、長野市立松代小学校

[図書](計3件)

高橋実他、岩田書院、近世地域文書管理史研究の現状と課題(『関東近世史研究論集 村落』)、2012、pp.105-128

渡辺浩一他、吉川弘文館、地域の記憶と装置(『<江戸>の人と身分5 覚醒する地域意識』)、2010、pp48-77

林匡他、雄山閣、薩摩藩の家格・役格整備と藩政文書の書式統一 - 島津吉貴藩政期を中心に - (『南九州の地域形成と境界性 - 都城からの歴史像 - 』)、2010、pp122-148

6. 研究組織

(1)研究代表者

高橋 実 (TAKAHASHI, Minoru)・国文学研究資料館・名誉教授
研究者番号：20296108

(2)研究分担者

大友 一雄 (OHTOMO, Kazuo)・国文学研究資料館・研究部・教授
研究者番号：30169007

渡辺浩一 (WATANABE, Kouichi)・国文学研究資料館・研究部・教授
研究者番号：00201179

山田 哲好 (YAMADA, Tetsuyoshi)・国文学研究資料館・研究部・准教授
研究者番号：70220390

青木 睦 (AOKI, Mutsumi)・国文学研究資料館・研究部・准教授
研究者番号：00260000

(3)連携研究者

吉村 豊雄 (YOSHIMURA, Toyoo)・熊本大学・文学部・教授
研究者番号：90182823

江藤 彰彦 (ETOU, Akihiko) 久留米大学・経済学部・教授
研究者番号：30140635

大石 学 (OHISHI, Manabu)・東京学芸大学・教育学部・教授
研究者番号：10183758

福田 千鶴 (FUKUDA, Chizuru) ・ 九州産業
大学 ・ 国際文化学部 ・ 教授
研究者番号 : 1 0 2 6 0 0 0 1

松澤 克行 (MITSUZAWA, Yoshiyuki) ・ 東京
大学 ・ 史料編纂所 ・ 准教授
研究者番号 : 4 0 2 8 2 5 2 9

東 昇 (HIGASHI, Noboru) ・ 京都府立大学 ・
文学部 ・ 准教授
研究者番号 : 0 0 4 1 6 5 6 2